

Title	シンガポールの工業化と日米進出企業の対応 - 日本の海外直接投資ハ° タ-ンの分析を中心にして -
Sub Title	
Author	岡田美砂子(Okada, Misako) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第671号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0671

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

シンガポールの工業化と日米進出企業の対応
— 日本の海外直接投資パターンの分析を中心にして —

私が本論文で研究の目的とするのは、シンガポールにおける日米進出企業の動向から、受け入れ国と進出企業の間係を考へることであつた。

ここで日米両国をとりあげたのは、同国の投資残高において、日米両国からの投資が常に上位を占めてゐるからである。このようなシンガポールにおける日米企業は受け入れ国にとって、はたしてどちらが自国の厚生配分を増加させる上で望ましいのであろうか。シンガポールはその地理的、歴史的経緯から大きく外資に依存して来た。これは同国には自国民の雇用の場として十分な国内産業資本がなかつたことから生じた。したがつて政府は外資を一貫して歓迎する方針をとつて来た。また、シンガポール政府は巧みな政策運営で外資を利用して自国の経済発展を行つた。

私は本論で、シンガポールにおけるいわゆる日本型とアメリカ型直接投資の検討の可能性をさぐつた。そして現地調査からその違ひを把握しようとした。結果、シンガポールにはもはやこのような違ひがないことが判明した。